



今、この時期に多い肺炎 レジオネラ症にご注意！

令和3年7月21日

富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)

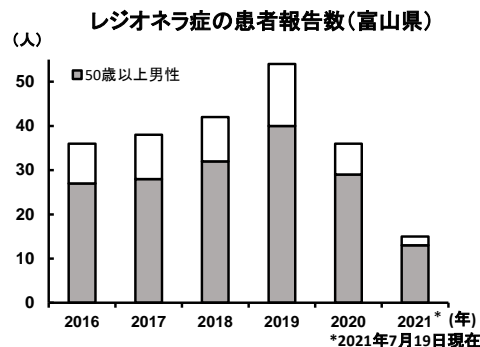
感染症発生動向速報

(令和3年第28週分・7月12日～7月18日)

《インフォメーション》

●レジオネラ症

レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症で、主に公衆浴場、循環式浴槽、加湿器、ビルの屋上などに設置された冷却塔の水中で増殖したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染、発症します。レジオネラ属菌は土壌や水環境にも存在するため、菌に汚染された環境水や粉塵を吸入することによっても感染する場合がありますが、ヒトからヒトへと感染することはありません。過去5年間における県内のレジオネラ症の報告数は、36～54人で推移しており、今年は今現在までに15人報告されています。患者の年齢・性別には偏りがあり、県内では50歳以上の男性が患者全体の7割以上を占めています(図参照)。富山県の罹患率(人口あたりの患者報告数)は高く、全国で1～2位で推移しています。レジオネラ症は年間を通して報告されますが、特に7月を中心に増加する傾向があります。



レジオネラ症の主な病型は肺炎で、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、悪寒、腹痛、呼吸困難が見られるようになります。意識障害や幻覚など中枢神経系の症状や下痢が見られるのも特徴とされています。治療には抗菌薬の投与を行います。レジオネラ属菌に有効な抗菌薬治療がなされないと死に至る場合もあります。このため医療機関においては、尿中抗原検出キットを用いた迅速検査を行い、適切な抗菌薬(キノロン系薬、マクロライド系薬)による治療を早期に開始することが求められます。また家庭では追い炊き機能付き風呂、24時間風呂、加湿器などに付着した「ぬめり」にレジオネラ属菌が生息しやすいため、取扱説明書に従い定期的に洗浄などを行い、適切に管理することが感染対策につながります。

《全数報告の感染症》

- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 29件
- 二類感染症 結核 4件 (①30歳代、男性 ②50歳代、女性 ③④共に80歳代、男性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件 (20歳代、女性、O157、VT2)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件 (50歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 アメーバ赤痢 1件 (50歳代、男性、腸管外アメーバ症)
- 急性脳炎 1件 (第27週診断分：10歳未満、男性)
- 梅毒 1件 (30歳代、男性、早期頭症梅毒I期)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週(増減)	先週
1位	RSウイルス感染症	5.83 (↓)	6.76
2位	感染性胃腸炎	2.86 (↑)	2.59
3位	咽頭結膜熱	0.72 (↑)	0.69
4位	突発性発しん	0.66 (↑)	0.28
5位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.38 (↑)	0.28
6位	ヘルパンギーナ	0.21 (↑)	0.00

RSウイルス感染症が全国的に増えています！
3歳未満の幼児に多く、症状は発熱、鼻汁。2～3割は気管支炎、肺炎に進展。生後6ヵ月以内、または基礎疾患があると重症化しやすく、注意が必要です。

○感染症発生動向調査報告状況（令和3年第28週 令和3年7月12日～令和3年7月18日）

分類	疾患	今週報告分（第28週）							累積報告数（令和3年第1週（1月4日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症		1	12	9	7		29	116	134	376	75	776	32	1,509
二類感染症	結核		1	1		2		4	8	6	22	10	29		75
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			1				1			4	1	2		7
四類感染症	E型肝炎								1				1		2
	つつが虫病								1						1
	レジオネラ症					1		1	1	3	7		4		15
五類感染症	アメーバ赤痢	1						1	1						1
	ウイルス性肝炎								2						2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										1	2	2		5
	急性脳炎										1		1		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										2		2		4
	後天性免疫不全症候群								1				1		2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1	1	1		3
	侵襲性肺炎球菌感染症								1		2		10		13
	水痘（入院例）												1		1
	梅毒					1		1	1	1	4		14		20
	播種性クリプトコックス症												2		2
	破傷風											1			1
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										5				5
	RSウイルス感染症	5	1	120	35	8		169	117	114	1,426	179	777		2,613
	咽頭結膜熱	1	1	2		17		21	29	32	130	6	122		319
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	1	1	7		11	60	35	425	79	199		798
	感染性胃腸炎	10	5	25	4	39		83	515	263	420	172	1,047		2,417
	水痘					1		1	1	6	22	5	27		61
	手足口病	1						1	5		10	1	8		24
	伝染性紅斑									1	7	1	12		21
	突発性発しん		2	4	4	9		19	38	21	96	44	91		290
	ヘルパンギーナ	2		1		3		6	18	1	3		4		26
	流行性耳下腺炎				1	1		2	2	2	5	5	7		21
	流行性角結膜炎									1					1
	細菌性髄膜炎												2		2
	無菌性髄膜炎												2		2
	マイコプラズマ肺炎									1	7	1			9
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）								1						1
	インフルエンザによる入院患者（※2）											1	8		9

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。 ※1 その他は県外、居住地非公表分です。 ※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和2年第36週(8月31日)～の集計です